

## ファイナンシャル・アドバイザー協会 第5回研修委員会議事録

1. 開催日時 令和4年1月14日(金) 午前10時00分より午前11時05分まで
2. 開催方法 (Zoomによる) Web会議
3. 委員  
委員長：太田智彦、副委員長：吉永高士、副委員長：中桐啓貴、委員：水野清司  
(全員WEB出席)
4. 研修委員会出席者  
財コンサルティング 田中代表、Fan 平石氏他 約4名 (全員WEB出席)
5. 事務局  
入木雅和、出久根智子、澤岨あゆみ (全員WEB出席)
6. 第4回研修委員会(11月12日(金))以降の活動報告
  - (1) ゴールベース・プランニング基礎スキル研修  
研修終了後に実施したアンケート結果について、入木事務局長より報告。
    - ・ 役に立ったとの意見がある一方で、講義時間が長いと感じた受講者が多かった。
    - ・ 集合研修で実施したロールプレイングは概ね高評価だった。(吉永理事)
    - ・ アンケートを拝見して、講義時間や間隔が長いとの意見が多い印象。同様のプログラムを次回以降企画する際には講義時間および研修の間隔をもう少し短くしても良いのではないか。(中桐理事長)
    - ・ 実務研修プログラムについて、今後協会としてどのように取り組むかを考えて行きたい。
  - (2) 第3回正会員等定例会  
資料に基づき太田理事より説明。  
(入木事務局長)
    - ・ コロナの感染状況次第ではあるが、懇親会はなるべく対面開催できるようにしたい。(吉永理事)

- ・ 法人賛助会員が登壇することは少ないので、今回のように登壇する機会を作れたのはよかった。今後も多くの法人賛助会員に登壇いただけるよう、参加しやすいテーマ設定等に取り組みたい。

(水野顧問)

- ・ 協会として、委託正会員や法人賛助会員が情報発信できる場を定期的に設けることは重要と考えている。

(財コンサルティング 田中代表)

- ・ 対面ならではのコミュニケーションをとることができ良い機会となった。コロナの感染状況にもよるが、2月25日のカンファレンスについても、可能であれば対面で開催してほしい。

## 7. 協議事項

- (1) 賛助会員等のご提供による研修プログラムの紹介に際しての考え方と基本的な対応手続きについて

資料に基づき吉永理事より説明。

- ・ 法人賛助会員等より提供していただいたコンテンツに関する情報や案内を、都度メールで案内するのは効率的な告知ではなく、会員にとって利便的でないと思うので、まとめて閲覧できるものを一定頻度でアップデートするのがよいと思う。
- ・ 提供いただいたコンテンツを一覧表にして協会ホームページで追加や更新の都度アップデートし続けると、それと並行して会員向けのメールでも年に1~2回最新のエクセル表か協会ホームページの該当リンクを送るのがよいと考える。
  - 協会ホームページへ掲載に向けて進める。
- ・ ピクテ投信は既に IFA 一般向けの研修プログラムがあるが、FA 協会会員専用に提供したいとの申出があることについては、「協会会員専用」ということになると協会が公認したコンテンツと受け取られかねず、また協会としての事前・事後の審査やモニタリングといった対応が必要となることが危惧される。
  - 協会としては一定の距離を置き、個々の知見・経験に基づいた情報提供や意見を述べるに留める。

- (2) 第2回 FA カンファレンス

① 資料に基づき入木事務局長より進捗状況等を報告。

- ・ カンファレンスのチラシを会員に対しては昨年末にメールにて送付、非会員の IFA 事業者に対しては、年初にチラシを郵送した。
- ・ 現状の申込数は、オンライン・対面ともに 20 名弱。一次締切（対面）は 1 月末。
- ・ 法人賛助会員のブース出展において、テーブル・椅子については会場側で用意する。

(持込も可)

② カンファレンスの開催の可否について

- ・ 開催可否について議論し、開催の1ヵ月前および2週間前を目途に判断することとした。(次回理事会(2月10日)にて最終決定する。)
- ・ 開催可否の判断は、今後の感染状況および国や東京都の方針に従い協会として判断する。

(3) 来期の研修委員会活動方針について

資料に基づき入木事務局長より報告

- ・ 2022年度予算策定にあたり、次回の研修委員会(3月11日)までに来期の研修の活動方針を検討する必要がある。

(財コンサルティング 田中代表)

- ・ 定款第3条(目的)にて定めている(7)、(5)、(8)を重点項目にしたいとの意見が多かった、とのことであるが、各目的をもう少し具体的に明確にしてほしい。
- ・ ゴールベースアプローチについて共通の認識を明確にした方が良いのでは。(ゴールの定義が各自まちまちであり、ゴールを誤解している場合がある。)

(吉永理事)

- ・ ゴールについて誤解している人は多い。2008年にゴールベースアプローチの概念を、米国からわが国に持ち込んだ者として、協会や業界のイベントでも取り上げてはいるが、今後も機会毎に継続的に情報発信を行うことで、ゴールベースについて、より広く正しく普及・浸透し、IFA、顧客ともに幸せになってほしいと思っている。
- ・ 現在、「ゴールベース資産管理」の単行本を9月頃出版予定で準備を進めているので、多くの方に読んでいただきたい。(編者：新井氏(野村証券副社長)、筆者：吉永理事を含めた5名が執筆)

(中桐理事長)

- ・ ゴールベースアプローチは浸透しづらいので、研修委員会としても繰り返し情報発信する必要がある。ゴールベースアプローチに関して、より実践的な研修プログラムを開発するかは議論が必要。

(4) その他

他協会との連携・協働及び非会員向けセミナー・研修については、認知度向上委員会での協議事項とすることが確認された。

以 上